

2026年9月6日 千里キリスト教会

マタイ 18:1-10 「五体不満足」

藤井義生

1970年の大阪万博の年に誕生した私は、2回目の万博を終った所です。56年生きて来たのですが、つくづく思うのは「誰が一番偉いか」という価値観が如何に社会に深く根付いているか、同時に自分の心に巣食っているかです。

聖書の中で、イエス・キリストは神の子としての特権を誇示せず、周囲を「つまづかせないため」に謙虚に納税の義務を果たされました。また、当時は価値の低い存在とされた幼子を中央に招き、端に追いやられた存在をこそ重んじられました。

さらに、イエス様は、私たちの盲点を突きます。それは「自分自身をつまづかせない」という教えです。若い頃のように体が動かない、教会の奉仕が十分にできない、記憶力が衰えて聖句も思い出せない……。そんな自分に対して「私はダメな人間だ、役に立たない」としてないでしょうか。驚くべきことに、自分の手足や目が自分自身を裁き、つまづかせてしまうことがあるのです。

そんな私たちに、今日、イエス様はこう語りかけます。「あなたの奉仕の能力が片手片足分であっても、五体不満足なままで良いから、いのちに入りなさい。知性が衰え、片目の状態であっても、そのままで良いのだよ」。

私自身は、アトピーという身体的な苦しみ（五体不満足な面）があったからこそ、神を信じ、牧師になる道が開かれたのです。もし健康優良児で何でもできる「五体満足」な人間であったなら、きっと神を必要とせず、いのちの道に入らなかったことでしょう。

56年前、私の母は私の母子手帳をしたためていました。そこには、私が痒がっていたこと、食事をあまりとらず、イチゴしか（当時の藤井家には高級な！！）食べなかったことが書かれてあります。56年経ちました。そんな私が、吹田市民のあなたにお伝えします。「いのちに入ってね、五体不満足ままでいいから。」